

## 世界の話題

### ドイツ

最近、ドイツでは衣服の安全性への関心が高まりから「エコ・ファッション」が注目を集めている。ミュンヘン市内でブティックを営むC・ライナーツさんは「化学薬品や農薬を使わずに身体に良い服もあるはず」と綿、絹、麻、竹、海草などを使った天然素材の衣料品を18年前から扱っている。開店当時は地味なデザインが多かったが、関心の高まりとともに、エコ・ファッションに取り組むデザイナーも増え、カラフルで流行を盛り込んだファッション性の高い衣服が並ぶようになった。天然繊維特有の柔らかい肌触りも人気の理由だ。

エコ・ファッションが浸透する中で、消費者にとって衣料が本当に安全かどうかを見分ける目安となるのは「認証マーク」だ。すでに食料品については各企業が個別につくった認証マークが1000以上にのぼるため、消費者センターが各認証マークのデータをネットで

### エコな衣料品 目安これから



公開し、消費者に詳しい情報を提供している。

エコ・ファッションの場合、天然素材かどうか、栽培から製造工程に至るまで環境に負荷をかけていないか、発展途上国の労働者に適正な賃金を払い流通されているかなどがポイントとなる。しかし、今のところ衣料品に関する信頼できる認証マークは少ないのが実情だ。衣服は24時間身につけるものだけに、今後、信頼できる認証マークの確立を望む消費者の声は高まるだろう。(福田 直子)